

病院再整備事業

進捗状況について

附属病院は、平成20年7月新病棟の開院に向け、本体工事の他、電気、機械設備、基幹環境整備工事等、並行して急ピッチで進められており、現病棟南側に威容を誇る骨組みが姿を現してきました。今後、次のとおり既存病棟のバルコニー解体等、新旧の接続工事が階を追って予定されており、いよいよ各診療科からのご協力をお願いすることとなります。

- なお、全体計画（予定）は次のとおりです。
- 平成19年12月 新病棟増築工事竣工
 - 平成20年7月 新病棟開院
 - 平成20年7月 東病棟改修工事着工
 - 平成21年7月 東病棟改修工事竣工
 - 平成22年2月 新東病棟稼働開始
 - 平成22年2月 西病棟改修工事着工
 - 平成23年3月 西病棟改修工事竣工
 - 平成23年10月 新西病棟稼働開始

病棟	工事期間
4階東病棟	平成18年10月9日～
西病棟	平成18年10月23日～
5階東病棟	平成18年10月25日～
西病棟	平成18年11月10日～
6階東病棟	平成18年11月10日～
西病棟	平成18年11月29日～
7階東病棟	平成18年12月6日～
西病棟	平成18年12月13日～
8階東病棟	平成18年12月20日～
西病棟	平成18年12月27日～
9階東病棟	平成19年1月10日～
西病棟	平成19年1月27日～
10階東病棟	平成19年1月29日～
西病棟	平成19年2月2日～



山形医学交流会館竣工記念式典を開催

平成18年8月30日（水）山形大学医学部において、山形大学医学部創立30周年記念事業山形医学交流会館の竣工記念式典が執り行われました。

完成した本会館は、創立30周年という大きな節目を迎えるにあたり、山形大学医学部の足跡を振り返るとともに、国立大学法人としての更なる飛躍の礎とするために企画されたもので、医学部建学の精神である「人間性豊かな考える医療人の育成」及び「先端医療の導入・研究などの医療に関する情報の発信の場であること」を踏まえた機能的なデザインと、ゆとりと潤いが感じられる広々とした空間をモチーフに設計されており、鉄骨造り2階建て、延べ床面積は約56平方メートルとなっています。

午前11時30分からの式典では、嘉山医学部長のあいさつ及び衆議院議員加藤紘一先生らの祝辞に引き続き、嘉山医学部長、加藤紘一議員、遠藤利明議員、仙道学長らによるテープカットが行われました。



研究会、市民を対象とした公開講座、医療従事者の生涯教育のための研修会などの学術交流のほか、地域医療関係機関や関連企業との情報交換、教職員・学生・同窓会会員等が交流を図るための各種集会などに利用されます。

県内初の生体肝移植

山形大学医学部 消化器・一般外科では本年6月に県内初の生体肝移植を成功させました。肝臓の提供者（ドナー）は約2週間退院、移植を受けたレシピエントも8月上旬に退院いたしました。山形大学医学部附属病院では全病院を挙げてこの肝移植手術に取り組んでいただきました。嘉山医学部長、山下病院長をはじめ、関連の部署の皆様方には心から御礼申し上げます。

肝移植について

肝移植は肝疾患の最終的な状態に対する根治的な治療法です。1963年にGyusiらにより世界初の肝移植臨床例が行われて以来、すでに約40年間行われています。この間の種々の免疫抑制剤の開発や進歩、移植手技や管理法の進歩、社会的環境の整備などにより肝移植の成績は飛躍的に向上してまいりました。最近では移植数が非常に増加し、欧米では脳死者をドナーとする肝移植が年間8000例以上行われております。術後の成績も良好で末期肝疾患に対する一般的な治療として定着してきました。その治療成績は、1年生存率は85%、5年生存率は65%とされていますが、施設によってはさらに良好な成績が報告されています。

一方、日本では脳死法案が成立したものの、現在までに脳死からの臓器摘出はわずか50例以下に行われたのみです。したがって実質的には肝移植のほとんどが生体部分肝移植によっているといっても過言ではありません。

生体部分肝移植というのは近親者の肝臓の一部を切除してグラフトとし、移植を必要とする患者さんの病的な肝臓をすべて切除したのちに、その部分にグラフトを移植する方法です。わが国では16年前から行われ、今までに約3000名以上の患者さんがこの治療法を受けられています。その生存率は18歳以上の場合、約68%とされています。生体部分肝移植は脳死肝移植に比べて、比較的細い血管や胆管を吻合しなればならない複雑で難しい手術です。それにもかかわらず、この成績は外国の脳死者からの肝移植の成績と比較しても決して遜色ありません。

生体肝移植について

生体部分肝移植ではドナーから摘出できる肝臓の大きさに制限があるため、当初は身体の小さな小児を対象として始まりました。その後、ドナーから摘出されるグラフトの大きさが十分であれば、身体の高年齢児や成人においても安全に施行できることが明らかになってきました。ただしドナーから切り取れる肝臓の大きさには限界がありますので、成人例ではグラフトの大きさが必要量の大きさに比べてどうしても小さくなります。このことが小児例のほうが成人例よりも良好である原因のひとつとなっています。

最近ではより大きなグラフトを得るため、ドナーの肝臓の右葉をグラフトとして用いることも行われるようになってきております。これからも適応に応じて生体肝移植を行い、さらに成功例を増やし、山形大学医学部の誇りの一つにしていきたいと思っております。皆さまのご支援をよろしくお願いいたします。

山形大学消化器・一般外科
木村理平 平井一郎
須藤幸一 藤本博人
渡邊利広 布施明



お知らせ

附属病院内にコーヒーショップがオープン

平成18年7月7日、山形大学医学部附属病院内にコーヒーショップがオープンしました。東北6大学では、東北大学に次いで2番目の出店となります。

このたびオープンする「ドトールコーヒー」は、午前8時～午後9時までの営業となっています。

これは、患者様へのサービス並びに若手医師らスタッフ等の福利厚生の一層充実を図るため、山形大学医学部が取り組んでいるアメニティの改善のひとつです。

午前9時の開店時に行われたオープニングセレモニーでは、嘉山医学部長のあいさつに引き続き、嘉山医学部長、山下病院長、鈴木日米商事株式会社取締役社長、橋元(株)ドトールコーヒー北日本本部東北地区本部長らによるテープカットが行われました。



研究

山形大学医学部「候補遺伝子」を発見

山形大学医学部の「地域特性を生かした分子疫学研究」グループは、糖尿病、C型肝炎、慢性閉塞性肺疾患、運動障害を起こす難病パーキンソン病などの発症に関係する候補遺伝子を発見しました。

これは、1979年より行ってきた検診(舟形町、川西町、高島町など)を通じて蓄積した約五千人という地域住民の遺伝子データと、長年の健診で蓄積した臨床データを統計的に突き合わせた結果、発見されたものであります。

研究グループは、生活習慣病の発症には複数の遺伝子が絡んでいると見ており、遺伝子の組み合わせの解析と、新たな原因遺伝子の発見に取り組んでいます。パーキンソン病に関しては、既に製薬会社との共同研究に着手しております。将来的には、生活習慣病発症のリスクを予測し、個人ごとの新しい健診システムや予防薬の開発を目指しています。

研究

県内初の生体肝移植

山形大学医学部附属病院第一外科(消化器・一般外科)におきまして、県内在住の40代男性の代謝性肝疾患の患者に対して、6月9日に県内医療機関では初めてとなる生体部分肝移植手術を施行しました。患者は合併症や拒絶反応もなく、16日に集中治療室から一般病棟に移りました。

本院では、今年1月に県内の医療機関から男性患者の紹介を受け、検査や学内の倫理委員会で慎重に検討した結果、肝移植の実施を決定しました。手術は本院第一外科の木村理教授を中心に10人以上のチームを組み、オブザーバーとして東大の専門医を招いた上で、約12時間半をかけ行われました。

この成功を受け、嘉山孝正医学部長は「これまでは県外施設での肝移植しかなく、患者や家族の経済的、精神的負担が大きかったが、その軽減につながる。」と話しております。



行事

生涯教育セミナー(第10回)講演会

厚生労働省 松谷医政局長

生涯教育セミナーは、平成16年度に採択された現代GP「生涯医学教育拠点形成プログラム-包括的地域医療支援機構創設-」の事業として、医学に関連した各分野で御活躍されている方々をお招きして、講演会を開催しているものです。第10回セミナーは、厚生労働省医政局長松谷有希雄先生を招聘して「医療制度改革について」と題する講演会を7月11日に開催しました。我が国の医療政策の中枢を担っておられる立場から示唆に富んだ講演でした。講演終了後の質疑応答を座長の嘉山医学部長が巧みにリードされ、意見交換が活発に行われました。この中で行政が目指す医療政策と医療現場が望む医療政策の違いが浮き彫りになり、参加者からは大変参考になったとの意見がありました。今後は、9月に「専門医制度」、10月に「ライフサイエンス研究」、11月に「在宅医療」、12月に「患者からみた医療」に関する講演会を予定しております。多数御参加下さい。



お知らせ

附属病院内にコンビニエンスストアがオープン

平成18年5月17日、山形大学医学部附属病院内に24時間営業のコンビニエンスストア「ファミリーマート」がオープンしました。国立大学の附属病院としては初めての出店です。広さは約195㎡、車いすでもゆったり買い物ができるよう、通常の1.5倍の通路幅を確保し、レジの高さを低くした車いす専用カウンターを設けています。商品は3000品目と多種で、うち400品目が大人用おむつなど一般店には置いていない衛生医療介護用品となっているのが特徴です。

これは、患者様へのサービス並びに若手医師らスタッフ等の福利厚生の一層充実を図るため、山形大学医学部が取り組んでいるアメニティの改善のひとつです。

午前9時の開店時に行われたオープニングセレモニーでは、嘉山医学部長のあいさつに引き続き、嘉山医学部長、細矢副病院長、(株)ファミリーマート高橋開発本部長らによるテープカットが行われました。



イベント

社会規範の説明会

7月25日(火)本院において、「社会規範に関する説明会」が開催されました。

この説明会は、教職員を対象に、業者との付き合い方、利害関係等を定めた倫理規則の順守、寄附金の適正な処理など社会規範の遵守に係る重要事項について説明が行われ、約310人が参加しました。

嘉山学部長からは、「兼業手続き」、「機器の購入」、「学会準備金」などについて、あらためて規則の説明が行われました。

続いて、本学研究プロジェクト戦略室の山崎教授から、プール金、カラ出張の禁止、食事の範囲など研究費の適正な執行についての説明及び、山下病院長から、医療事故等の対応について説明が行われ、非常に有意義な説明会となりました。



山形県保健看護功労者 知事感謝状の決定

本県の保健看護業務に精励し、地域保健医療の発展向上に貢献した功労者に対する知事感謝状贈呈式が、平成18年5月12日(金)に山形県庁で行われました。本院関係者では次の方々が受けられました。

- 那須 景子…副看護部長
- 川合由美子…看護師長
- 土田つたえ…看護師長
- 菅原伊津子…副看護師長
- 吉田 智子…副看護師長

誕生 認定看護師 (手術看護分野)

手術部 看護師
庄司 智子



私は、14年間手術部看護師として看護を実践してきました。術後の患者状態から手術部での看護を反省材料として、次の看護に活かし積み重ねてきました。しかし、後輩を育てる立場に立つようになった今、自分の知識や技術は、これまでの経験から培った感覚的なものが多く、それを根拠のある専門的技術である手術看護として伝えられずにいる自分に歯がゆさを感じていました。そんな折、日本看護協会が主催する認定看護師教育で一昨年から手術看護が専門分野として認められ、学習する場が設けられました。「ぜひ手術看護分野の認定教育を受けたい。自分の手術看護力を全国水準で試してみたい。山形大学手術部の看護の質を上げるヒントを得たい。」そんな気持ちでいたところ、所属部署や病院側からのバックアップが得られ、東京女子医科大学看護学部認定教育センターでの6ヶ月間の認定教育を受講することができました。そして今年6月の認定審査に合格し、手術看護分野の認定看護師になることができました。

手術技術は医学・科学技術の進歩に伴い日々進歩しています。看護もまた看護学として発展し、より専門的で高度な看護が患者さまへ提供されるようになってきました。そんな中、手術看護も、患者の安全を保证するための新たな手術看護の知識と技術の構築。最新の科学的根拠に基づいた感染対策の導入と実践および推進。また、麻酔下であり、意思決定が困難であり、密室性の高い環境にある手術室で、医療者にゆだねるしかない患者の権利や尊厳にともなう倫理感の問題など、ますます高度な知識や技術が必要とされ、専門性が求められるようになってきました。今後は手術看護分野の認定看護師として、この情勢に即応できるように最新の情報を収集し、幅広い知識を持ってその知識に裏付けられた看護を実践するモデルとなり、他の看護師に対して具体的な指導・支援・相談の役割をはたしていきたいと考えています。また近年求められる患者本位の「真の医療チーム」を実現するために、医師や病棟看護師との連携はもとより手術チームに関わる様々な職種の方々と手術部看護師との連携も図っていきたくと考えています。

東根市との合同イベント 「悠遊健歩」を開催



10月8日(日)に東根市との合同イベント「悠遊健歩」を開催しました。この企画は山形大学活性化プロジェクト(中堅職員研修)から生まれたもので、第1回目の開催となります。この企画の趣旨は、市民の健康づくり運動を支援するため、東根市と連携し、幅広い年齢層を対象にしたウォーキング事業を開催し、健康づくりにおける意識改革を喚起すると共に、日々の生活習慣を改善することを目的としています。

今回のイベントは、県内外から5歳~81歳の約300人のエントリーがあり、周期的に雨が降るといった条件の中、午前には5キロと7キロのコースが用意され、健康チェックとウォーキング、午後には温泉入浴と笑いの講演会をセットで楽しみました。本学部からは、医師・看護師・医学科及び看護学科学生・事務職員が約50人と、学生サークルの「お笑いサークル」5人が事業運営に当たりました。

参加者は午前中、本学の医師と看護師から血圧などの健康チェックを受けた後、医学科学生がサポートしながら市内の名所を巡る5キロと7キロのコースを歩きました。ゴール後は再度健康チェックを受け、農学部附属やまがたフィールド科学センター(旧農場)で収穫した里芋を使った芋煮を味わい、会場では「おいしい!」と評判で用意した400食があっという間になくなりました。その後、ゆっくりと温泉で疲れを癒し、学生サークルのお笑い?に腹を抱え、落語家・三遊亭夢之助さんの講演「健康は笑いから」を聞きました。会場は爆笑の連続で、参加者は皆満足そうでした。

人事往来

じんじ、おうらい 2006年10月 (18.3.2~18.10.1)

医学部

- 18.3.31 助手 器官機能統御学講座[急性期生体機能統御学分野](救急医学講座) 伊関 憲(昇任 講師 器官機能統御学講座 [急性期生体機能統御学分野](救急医学講座))
- 18.3.31 教授 情報構造統御学講座[皮膚科学分野](皮膚科学講座) 近藤 慈夫(定年退職(開業))
- 18.3.31 助手 情報構造統御学講座[組織細胞生物学分野](解剖学第二講座) 鷺岳 宏(定年退職)
- 18.3.31 教授 臨床看護学講座 森岡由起子(退職(大正大学へ))
- 18.3.31 助教授 神経機能再生学講座(脳神経外科講座) 齋藤伸二郎(出向退職(山形市立病院済生館へ))
- 18.3.31 助教授 器官機能統御学講座[急性期生体機能統御学分野](救急医学講座) 土田 浩之(退職(みゆき会病院へ))
- 18.3.31 助教授 病理部 田村 元(出向退職(県立中央病院へ))
- 18.3.31 講師 第一内科 佐田 誠(出向退職(国立循環器病センターへ))
- 18.4.1 助教授 器官病態統御学講座[循環薬理学分野](薬理学講座) 石井 邦明(昇任 教授 器官病態統御学講座 [心臓薬理学分野](薬理学講座))
- 18.4.1 (東北大学大学院医学系研究科助教授) 根本 建二(採用 教授 環境病態統御学講座 [放射線腫瘍学分野])
- 18.4.1 助教授 臨床看護学講座 古瀬みどり(昇任 教授 臨床看護学講座)
- 18.4.1 (広島国際大学看護学部助教授) 峯岸由紀子(採用 助教授 基礎看護学講座)
- 18.4.1 講師 代謝再生統御学講座[顎顔面口腔外科学分野](歯科口腔外科学講座) 濱本 宜興(昇任 助教授 歯科口腔外科)
- 18.4.1 助教授 発達生体防衛学講座[病理病態学分野](病理学第一講座) 前田 邦彦(配置換 助教授 病理部)
- 18.4.1 助手 検査部 柴田 陽光(昇任 講師 第一内科)
- 18.4.1 (公立置賜総合病院) 黒木 亮(採用 講師 脳神経外科)
- 18.5.1 講師 脳神経外科 佐藤 慎哉(昇任 助教授 神経機能再生学講座(脳神経外科学講座))
- 18.5.1 (県立日本海病院) 近藤 礼(採用 講師 脳神経外科)
- 18.5.1 助教授 放射線部 菅井 幸雄(配置換 助教授 環境病態統御学講座 [映像解析制御学分野](放射線医学講座))
- 18.5.1 助教授 環境病態統御学講座[映像解析制御学分野](放射線医学講座) 和田 仁(配置換 助教授 環境病態統御学講座 [放射線腫瘍学分野])
- 18.6.30 講師 脳神経外科 近藤 礼(退職(山形市立病院済生館へ))
- 18.7.1 講師 第二内科 齋藤 貴史(昇任 助教授 器官病態統御学講座 [消化器病態制御内科学分野](内科学第二講座))
- 18.7.1 助手 第二内科 牧野 直彦(昇任 講師 第二内科)
- 18.7.1 助手 神経機能再生学講座 小久保安昭(昇任 講師 脳神経外科)
- 18.7.1 助教授 器官病態統御学講座 [消化器病態制御内科学分野](内科学第二講座) 富樫 整(割愛(保健管理センター教授へ))
- 18.10.1 (天使大学看護栄養学部看護学科精神看護学助教授) 鈴木 英子(採用 助教授 基礎看護学講座)
- 18.10.1 助手 麻酔科 篠崎 克洋(昇任 講師 麻酔科)

編集後記

第14号のヘルス&セイフティを皆様にお届けします。山形大学医学部部長、山下院長をはじめとする関係者の皆様方のご協力により、山形大学医学部附属病院が地域がん診療連携拠点病院に指定されました。我々職員として大変喜ばしいニュースです。第一外科(消化器)一般外科木村教授の肝移植も素晴らしいニュースです。そのほか高度先進医療、山形医学交流会館竣工、病院再整備事業、山形大学G.P教育セミナー開催など充実した内容になりました。春の叙別では坪井名誉教授、林名誉教授、山本元副看護師長が受賞されました。本当におめでとうございました。これまでもご貢献に感謝いたします。また、益々のご活躍をお祈りいたします。山形大学医学部部長が決まりました。師の処遇改善の新制度導入のご尽力に感謝いたします。コヒシヨツとコンビニの開店など職員の仕事環境の改善も着実に進んでいます。山形大学医学部附属病院のニュースをタイムリーに皆様にお伝えするため、今後も紙面を充実していきたいよう努力させていただきます。ご要望・提言等ございましたら、お知らせください。編集委員会(竹石 恭知)

- 発行 平成18年11月15日
- 発行所 山形大学医学部附属病院 〒990-9585 山形市飯田西2丁目2-2 TEL 023(633)1122代 「山形大学病院ニュース」編集委員会
- 編集委員長 山下 英 俊
- 事務担当 総務課広報企画係 連絡先 TEL 023(628)5017
- 印刷所 坂部印刷株式会社